

学生の衣生活に関するライフスタイル (第4報)

—服飾デザインクラスの学生について—

早坂美代子・原田 妙子

Life Styles and Clothing Habbits of the College Student (IV)

— The case of Female College Students of Training
as An Expert on Dress and Its Ornaments —

Miyoko HAYASAKA and Taeko HARADA

緒 言

経済が豊になり、生活の多様化、個性化と言われる現代社会の中で、学生はどのようなライフスタイルを持っているのか、また、著しい科学技術の進歩に伴い、急成長を遂げつつあるアパレル業界の、多品種少量化の傾向の中で、学生は衣生活面をどう考えているのかを知るために、第1報¹⁾では、ファッション全般における意識を、第2報²⁾では春夏物を、第3報³⁾では秋冬物を中心に、着装面における意識や購買行動について調査し、服飾デザインクラス、被服科学クラス、食物コースの各専攻ごとに集計し比較検討を行った。その結果、現代の学生のファッション感の輪郭を捉え、専攻によってある程度の差も認めることが出来た。

そこで、本報では、2年間専門に学んできた服飾デザインクラスの学生を対象に、ライフスタイルを衣生活面から更に詳しく眺め、尚且つこれからの被服構成実習を行うに際して授業において学習したことを学生がどのように把握し、今後に生かすことをどの程度考えているかという現状を知り、何らかの指導上の手掛かりを得ようと考察を試みた。

方 法

第1～3報の結果との比較検討をするためもあり、調査対象は、第1～3報と同一の本学短期大学家政科服飾デザインクラスの2年次学生93名とした。

調査は、平成元年3月に実施した。

方法はアンケート用紙による集合調査法であり、有効回収数は82名(88.2%)である。

調査内容は表1に示す通りであり、まず第1報において情報源の第1位に上げられたファッション雑誌を取り上げ、購入状態や参考にしている内容などについてを、また、学生でありながらファッション性の高いDCブランドの購入がかなり多かったことを考え、最も多かった服飾デザインクラスの学生はどのくらい、何を購入しているのかを調査した。次に、洋服を購入する際の選択基準については、第2・3報で最も低かった縫製を除くデザイン、色、素材、価格、サイズ、機能性、組み合わせの7ポイントについて、8アイテムのそれぞれについて1～5の5段階で重視する程度を書かせた。更に、2年間実際に学んだ結果として、被服構成実習についても、興味度、必要度、得意度を1～5の5段階で回答させ、授業以外での製作枚数、今後の生かし方などについてもアンケートを行い集計し、考察を行った。

表1 調査内容

<p>1. ノンノ, アンアン, SO-EN, ドレスメーカーキング, JJ, モードエモードの6種類のファッション雑誌について</p> <p>(1). それぞれの購入状態はどちらですか.</p> <p>ア. 定期購読, 又はほぼ毎号購入する イ. 必要な時, 又はたまに気がむいたら購入する</p> <p>(2). どの程度見ますか.</p> <p>ア. 月1~2日 ウ. 週3~4日 イ. 週1~2日 エ. 毎日</p> <p>(3). 主に何の参考にしていますか.</p> <p>ア. デザイン カ. 旅行 イ. 着こなし キ. グルメ (コーディネート) ク. インテリア ウ. アクセサリー ケ. 専門店 (靴・鞆を含む) コ. ブランド名 エ. ヘアメイク サ. 製図・作り方 オ. レジャー シ. その他</p>	<p>4. 被服構成実習について</p> <p>下記の各項目に対して, ア~ウの質問に1を「全くない」, 3を「どちらでもない」, 5を「非常にある」の1~5で回答して下さい.</p> <p>ア. どのくらい興味が ありますか イ. どのくらい必要だ と思いますか ウ. どの程度得意です か</p> <p>ア. デザイン b. パターンカ ッティング c. 仮縫い, 補 正 d. 縫製 e. 着装 f. 部分縫い</p> <p>5. 短期大学部2年間で, 授業以外に, 製作した洋服の枚数はどれですか.</p> <p>ア. 全くなし エ. 6~10枚 イ. 1~2枚 オ. 11枚以上 ウ. 3~5枚</p>
<p>2. DCブランドについて</p> <p>(1). 1年間の購入状況は</p> <p>ア. 年1回 ウ. 年4回 イ. 年2回 エ. それ以上</p> <p>(2). 購入したDCブランド名とアイテム, 枚数を記入して下さい.</p> <p>3. 洋服購入の際の重視する程度を各ポイントについて各アイテム毎に1~5 (1を全く重要でない, 3をどちらでもない, 5を非常に重要であるとする) の5段階で答えて下さい.</p>	<p>6. 授業で修得したことを, 今後どのように生かしたいと思っていますか. 下記から選んで下さい. (複数回答可)</p> <p>ア. 専門職 (デザイナー) イ. 専門職 (パタンナー) ウ. 専門職 (アドバイザー) エ. 専門職 (縫製) オ. 家族・自分の着るものは, 作りたい カ. 既製品の直し キ. リフォーム ク. 着こなし方 (コーディネート) ケ. 既製品の選択</p> <p>7. 被服構成実習の授業内容に対する今後の希望があれば, 書いて下さい.</p>
<p>{ポイント}</p> <p>ア. デザイン イ. 色 ウ. 素材 エ. 価格 オ. サイズ カ. 機能性 キ. 組み合わせ</p>	<p>{アイテム}</p> <p>a. ブラウス b. スカート c. ワンピース d. セーター e. パンツ f. ジャケット g. ツーピース h. コート</p>

また, 更に同年4月に進路についての追跡調査も行った.

結果および考察

1. ファッション雑誌について

前報のアンケートの, 「ファッションに関する情報を何から得るか」という質問項目において, 全てのクラスで第1位であったのがファッション雑誌である. そこで, その時同時に予備調査として, 見ているファッション雑誌を全て記入させたので, 2年次学生の中で目的の異なる服

飾デザインクラスと食物コースの2クラスについて回答の集計を行った。

上げられた雑誌の種類は、25種類以上であり、服飾デザインクラスの方がかなり多かった。そこで、その中で14種類を選び多い順に春夏と秋冬、クラス別に分けて示したものが図1である。服飾デザインクラスの学生は、ノンノ、アンアン、SO-EN、ドレスメーカー、JJの順に上げている。一方、食物コースでは、JJ、ノンノ、CanCan、モア、アンアンの順となっており、ノンノはどちらのクラスにも多いが、アンアンとJJの順位はほぼ入れ替わっており雑誌の内容の差によるものと見られる。更に、実際洋服を作るための製図や縫製の方法等が掲載されているSO-EN、ドレスメーカーが服飾デザインクラスで3・4位であるのに対して、食物コースでは10・7位と少なくなっている。また、一方のクラスでのみ上げられているものには、服飾デザインクラスでは、モードエモード、ハイファッション、流行通信、ELLEの4冊があり、いずれも外国のコレクションなどが掲載されている専門的な雑誌と考えられ、反対に、食物コースでは、CanCan、ジュノン、ViViと実生活の参考として取り入れやすい内容の雑誌となっている。

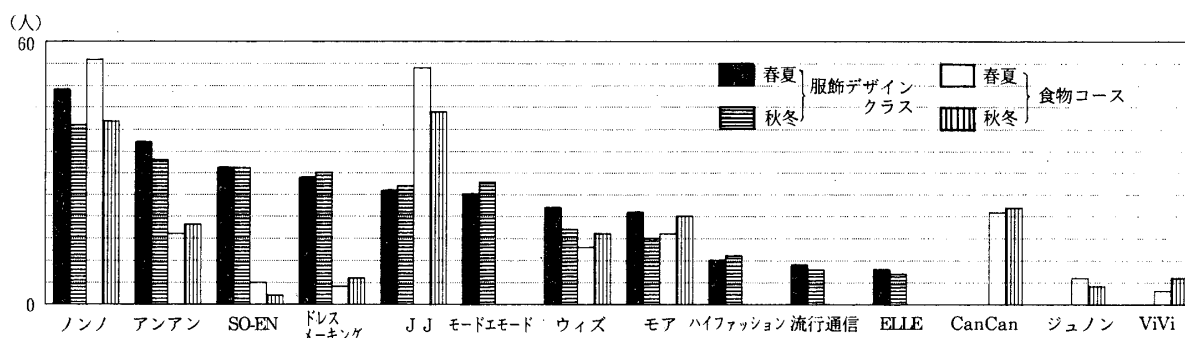


図1 情報源としているファッション雑誌

では、2年間専門の知識を学んできた服飾デザインの学生の購入（講読）状態は、どのようなものであるかを把握するため、これらの結果から、上位に上げられていたノンノ、アンアン、SO-EN、ドレスメーカー、JJ、モードエモードの6冊について、今回更にアンケートを行った。

円グラフの外円に購入状態を表し、内円は購入している者がどの程度その雑誌を見ているかを表したものが、図2である。

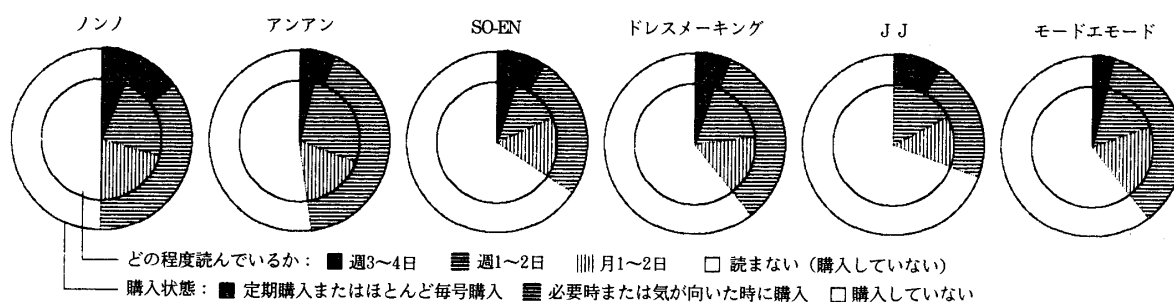


図2 購入状態および講読状態

前回の調査は、ファッションの情報源としての雑誌名であるのに対して、今回は、実際に購入している雑誌名であるためか、ノンノ、アンアン、ドレスメーカー、モードエモード、

SO-EN, JJと順位が変わっている. 更に, 定期講読あるいはほとんど毎号購入している者についてみると, ノンノ, SO-EN, JJ, アンアン, ドレスメーカーキング, モードエモードとなっている. 講読状態をみると, 雑誌毎の差はあまりなく, ほとんどの購入している学生は, 1ヶ月で1~2回あるいは週に1~2回くらい見ており, 購入した時の他に数回見るだけということのようである.

次に, これらの雑誌の内容を把握するために, 学生が主に参考としていることについて調査した. 項目を, デザイン, 着こなし (コーディネート), アクセサリー (靴, 鞄を含む), ヘアメイク, レジャー, 旅行, グルメ, インテリア, 専門店, ブランド名, 製図・製作方法, その他の12項目とし, 雑誌を購入している学生に複数回答は可として記入させた. それぞれの雑誌購入者を100とし表したのが, 図3である.

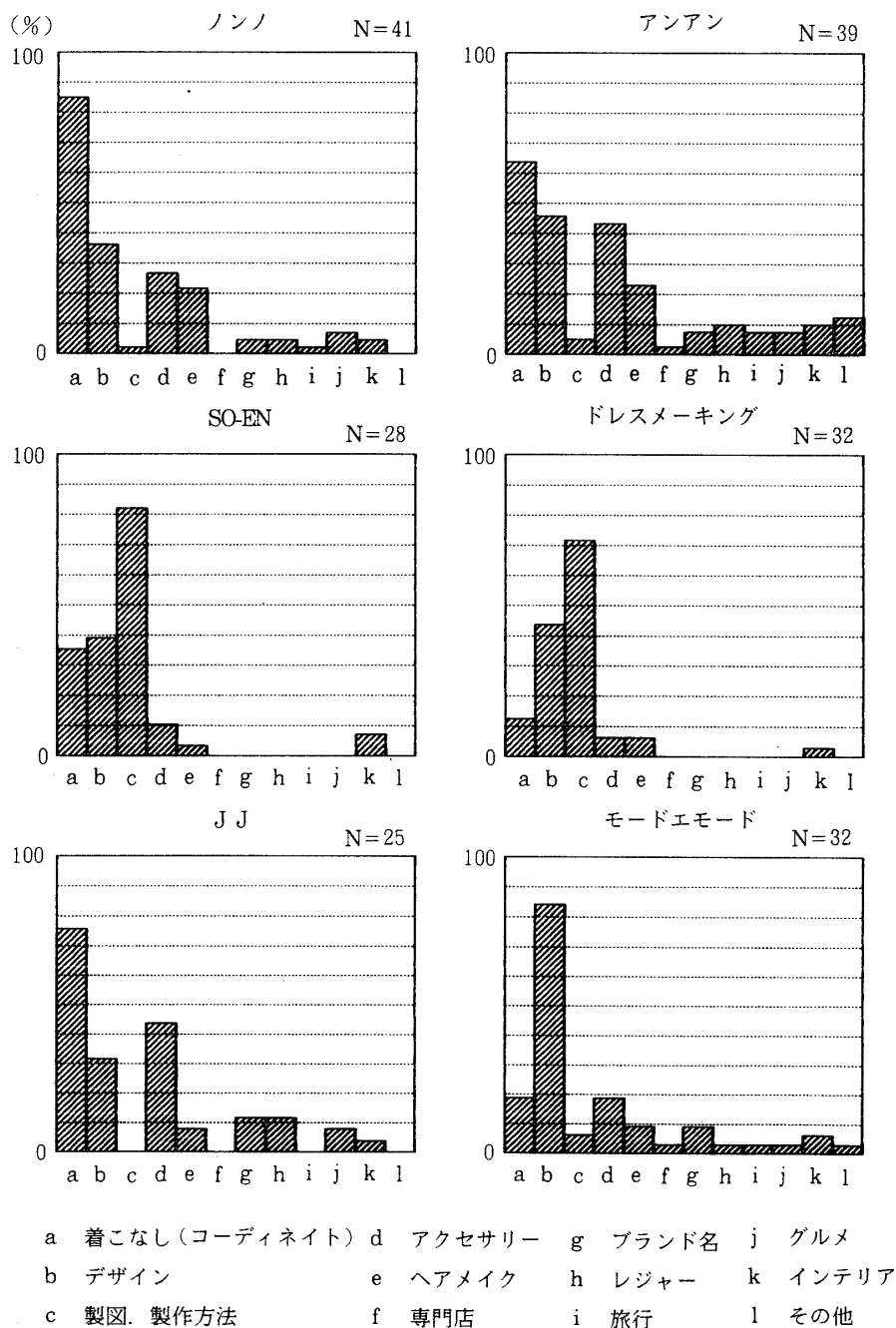


図3 主に参考としている内容

まず、それぞれの雑誌別にみても、ノンノは着こなし(コーディネート)の参考にして
いる者が最も多く、35名で85.4%であり、次がデザインで15名の36.6%となっており、着こなし
の参考をしている者が圧倒的に多い。アンアンでは、やはり着こなしの参考をしている者が
25名の64.1%と最も多いが、次がデザインの18名46.2%、アクセサリーの17名43.6%と続き、
ノンノほどの差は見られない。また、他の項目も参考していると答えた学生が5種の雑誌より
多く見られる。SO-EN、ドレスメーカーでは、製図・製作方法の参考として見ている
者がそれぞれ23名の82.1%、23名の71.9%とかなり多くなっており、続いては、SO-ENで
はデザインが11名の39.3%、着こなしが10名の35.7%、ドレスメーカーではデザインが14名
の43.8%となっており、若干の差はあるものの、掲載内容が被服製作を中心としている雑誌で
あることが表れている。JJについては、着こなしが19名の76%、次いでアクセサリーが11名
で44%、デザインが8名32%と続く。最後にモードエモードについては、デザインの参考にし
ている学生が圧倒的に多く、27名の84.4%と他の雑誌に比べても飛び抜けて多い。

次に全体を見てみると、着こなしの参考をしている雑誌は、ノンノ、アンアン、JJであり、
SO-ENがこれに続く。デザインの参考をしているのはモードエモードが最も多いが、その
他の雑誌も30%以上と多くなっている。製図・製作方法についてはSO-EN、ドレスメー
キングが飛び抜けて多い。また、アクセサリーやヘアメイクなど付随的な物についても、着こなし
と同じくノンノ、アンアン、JJが多い。これらのことから、学生は自分たちの欲しい情報
を、それに合った雑誌を選んでそこから入手しているように思われる。また、専門店、レジャー、
旅行、グルメなどについて、参考をしている者がほとんどいないのは、これらの雑誌が東京を
中心に編集されているためであると考えられる。

2. DCブランドについて

次に、DCブランド志向が女子大学生の間でかなり強いことは第1報において認められたの
で、その中でも最も多かった服飾デザインクラスの学生の状況を調査した。

まず、どのくらいの割合で購入しているのかを表したものが図4である。1年間に1度も購
入していないのは28名で、約3分の1を占めている。しかし、逆に1年間に5回以上、つまり
季節の変わり目などに関係なく、ほしいと思った時に買っている学生は、35名で42.7%と半数
に近い値を示している。1年間に1回、2回、4回という数回購入すると答えているのは、そ
れぞれ6名7.3%、8名9.8%、5名6.1%とわずかである。

では、購入する主なアイテムは何かという質問
に対する結果を、購入回数別にアイテム毎に示し
たものが表2である。これを見ると、1年間に1
回しか購入しないものは、ブラウス、Tシャツ、
2回購入する者は、スカート、ジャケット、ワン
ピース、4回の者は、スカートが多いがいずれも
少数である。1年間にかなり何回も購入する者で
は、ブラウス、スカートが非常に多く、スカート
は25名の71.43%、ブラウスは23名の65.7%を占
めており、次いでワンピース・スーツが17名、セー
ターが16名と半数に近い値を示しており、その他
のアイテムも比較的購入しているようである。購入回数の多い学生は、アイテムに関わり無く、
広い範囲でDCブランドを購入しているようである。また、全体をみてみると、半数以上が購

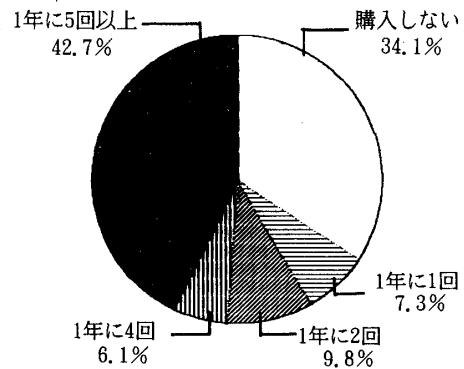


図4 DCブランドの購入状況

入している物に、スカート33名の61.1%、ブラウス29名の53.7%があり、ワンピース、スーツは3分の1以上が購入していた。ジャケットとブルゾンを分けて考えている学生が多く、14名と13名であったが、合わせると27名の50%でかなり多いと言える。

次に、購入アイテムは少なくとも、1アイテムに対して何種類かのDCブランドで購入している学生があるため、それぞれアイテム毎にブランド名を調べた。上がってきたブランドの数は71種も有り、同じアイテムで同じブランドを2名以上購入したと答えられているものは23ブランド、4名以上または各アイテムの別を問わずのべ人数が10名以上となるブランドは、10ブランドであり、それぞれの個性とブランドの多さを物語っているようであるが、その結果を表3に示した。

表2 DCブランド購入時の主なアイテム (人)

回数 アイテム	1年に 1回	1年に 2回	1年に 4回	5回 以上	合計 ()内 N=54*
スカート	2	3	3	25	33(61.1%)
ブラウス	3	1	2	23	29(53.7%)
ワンピース	0	3	1	17	21(38.9%)
スーツ	0	2	2	17	21(38.9%)
セーター	0	1	0	16	17(31.5%)
Tシャツ	3	1	0	12	16(29.6%)
ジャケット	1	3	1	9	14(25.9%)
トレーナー	1	1	1	10	13(24.1%)
ブルゾン	1	0	1	11	13(24.1%)
パンツ	0	1	0	11	12(23.7%)
コート	0	0	1	4	5(9.3%)
ニットスーツ	0	0	0	2	2(3.7%)

*印は、回数に関係なくDCブランドを購入した者の合計

表3 アイテム別ブランド名

(人)

アイテム ブランド名	スカート	ブラウス	ワンピース	スーツ	セーター	Tシャツ	ジャケット	トレーナ	ブルゾン	パンツ	コート	ニットスーツ
BIGI	3	4	4	—	3	3	—	2	—	4	—	—
コムサデモード	2	4	2	3	—	1	1	1	—	2	—	—
ニコル	2	3	3	1	1	2	2	—	—	2	—	—
VIVA YOU	4	1	2	2	1	1	1	2	—	—	—	—
メルローズ	2	2	3	1	1	—	—	2	—	—	—	—
PINK HOUSE	2	1	1	1	—	3	1	1	1	—	—	—
IS	—	1	—	1	—	1	2	5	—	—	—	—
スクープ	5	1	—	—	—	1	1	—	—	1	—	—
アトリエサブ	4	2	—	1	—	—	—	—	2	—	—	—
ペイトンプレス	1	3	—	2	1	—	—	1	—	—	—	1

最も多いのは、ISのトレーナー、スクープのスカートが共に5名、アトリエサブのスカート、BIGIのブラウス、ワンピース、パンツ、VIVA YOUのスカート、コムサデモードのブラウスが4名であった。また、BIGIにおいては、どのアイテムも比較的多く購入されているようである。アイテム別に見ると、スカートでは31個のブランド名が上げられており、次いでブラウス26ブランド、Tシャツ23ブランド、スーツ21ブランドと、日常よく着用され所持枚数も多いスカート、ブラウスと比較的価格の安いTシャツが多く、反対に少し良質の物と言うことからかスーツに多くのブランド名が上げられている。

3. 購入の際のポイント

被服を購入するにあたって、主に何を基準に選択しているかという点について、第2・3報において、デザイン・色などの感覚面を重視していることが明らかになった。しかし、被服の

アイテムは数多く、それぞれのアイテムに対して重要に考えている選択基準には違いが見られるはずである。そこで、全体の結果をふまえた上で、それぞれのアイテム毎に各ポイントについて重視の程度を「5非常に重要である」「3どちらでもない」「1全く重要でない」とし、5～1の5段階で回答させた。その平均値の結果をレーダーチャートで表したものが図5である。

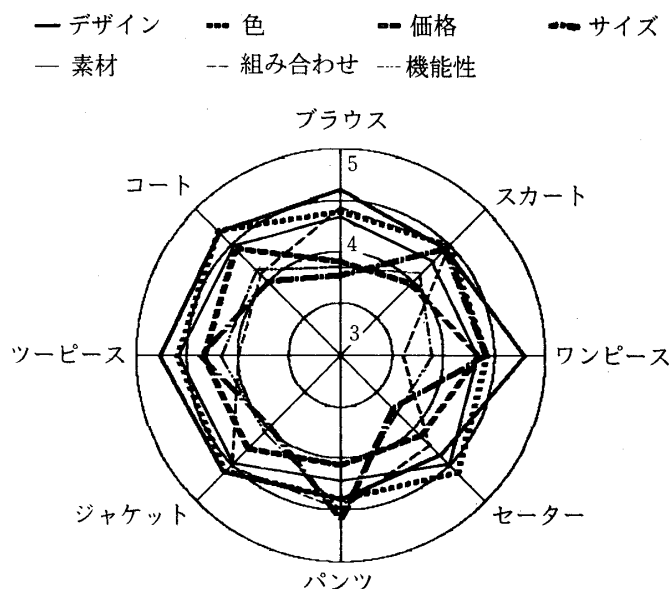


図5 被服購入時のポイント

まず、全体的に見ると、平均値はすべて3.60以上であり、服飾デザインクラスの学生が対象であったこともあり、上位4ポイントを選ばせた前報とは違い、どのポイントも多少の差はあっても考えの中に入れて選択をしているようである。レーダーチャートによると、どのアイテムにおいてもデザイン、色が外側、つまりより重要に考えているほうにあり、次に素材が高い位置にきているが、これは前報と違いアイテムを先に決め、その選択基準を考えさせたためと思われる。中心よりにあるのは、機能性であり、これは、前報においてもわかるように、選択基準で非常に少なかったために、今回は省いた縫製に次いで少なかったことと一致している。その中間に位置するのが価格であり、前報の選択基準で4位までの合計では多いものの、1位として上げた学生があまりいなかったということからもうかがえる。また、サイズ、組み合わせについては、アイテムによって、高い値を示すものもあれば、最も低い値を示すこともあり、アイテムによる差が認められる。

次にアイテム別に見てみると、ブラウスについては、最も高い値を示しているポイントはデザインで4.60、次いで組み合わせの4.43であり、スカートについては、色と組み合わせが4.50と高く、それぞれのデザインだけでなく組み合わせで着用するということが意識されている。逆に、低い値を示しているのは、ブラウスではサイズの3.77が、スカートでは価格の3.98である。これは、今までのブラウスのデザインがフィット性の高くない物であること、またスカートでは学生が購入する物にあまり価格の差がないことが考えられる。ワンピースについては、デザインの4.80が高く、色、サイズが4.43で続くセーターについては、色4.61、素材4.50が高く、この点が注目される。また、ブラウスと同様サイズが3.72と低い。活動しやすい点からか、パンツはサイズが4.59で高く、機能性、組み合わせが4.50で続き、低くても価格が4.07という値である。ジャケットについては、デザイン、色がそれぞれ4.61、4.60で高く、サイズが3.98

と低い。ツーピース、コートではデザインが4.77, 4.68, 色が4.60, 4.70と高く、逆に低くても4.00でそれぞれ組み合わせとサイズである。

これらのことを考え合わせると、デザインを重視して選択しているものはほとんどであり、中でも組み合わせることが少なく比較的高価なワンピース、ツーピース、コートの得点が高く、ジャケット、ブラウス、スカート、パンツ、セーターと続き、4.37～4.80の範囲内にある。色については、4.39～4.70とデザインと同じく高得点ではあるが、ポイントの中で最も得点の幅が狭く、アイテムによる差が少ない。価格については、やはり高価であると予想されるアイテムの得点の方が高い。サイズについては、パンツ、スカート、ワンピース、ツーピースとフィット性の高いものの得点が高く、ブラウス、セーターなどが低いことは、流行にも関係があるようであり、今後変わっていくと予想される。素材面は、ツーピース、セーターにおいて重視されており、組み合わせは、ジャケット、スカート、パンツ、ブラウスといった組み合わせで着用する物の中でよく考えられている。また、機能性はパンツが特に高い得点を得ている。以上のことから、学生は、多少なりとも、それぞれのアイテム毎に購入の際にはポイントに差をつけて、選択していることがわかる。

4. 被服構成実習について

以上の結果から、学生の衣生活面に関するライフスタイルの概要は大体把握できたと考えられる。では、実際行われている被服構成実習の授業や内容について、どのような意識を持っているのだろうか。

まず、短期大学部2年間で授業以外に自分が製作した洋服の枚数を、「全く製作していない」「1～2枚製作した」「3～5枚製作した」「6～10枚製作した」「11枚以上製作した」の5つの中から選ばせた。図6の円グラフが、それを表した物である。1～2枚製作した者は、32.9%であり、3～5枚製作した者は39.0%とそれぞれ約3分の1を占めている。しかし、6枚以上製作した者は15.9%であり、中でも11枚以上は6.1%とわずかである。これは、短期大学部2年間は、実習教科が多く時間的余裕のない学生がかなりあると考えるべきなのか疑問である。また、全く製作していない学生についても考える余地があると思われる。

そこで、被服構成実習の内容の中からデザイン、パターン、仮縫い、縫製、部分縫い、着装の6項目を取り上げ、どの程度興味があるか(興味度)、どの程度必要だと思うか(必要度)、どの程度得意であるか(得意度)の3項目に対して、「1全くない」から「5非常にある」までの5段階で回答を得た。平均値を求め、レーダーチャートに表したものが図7である。

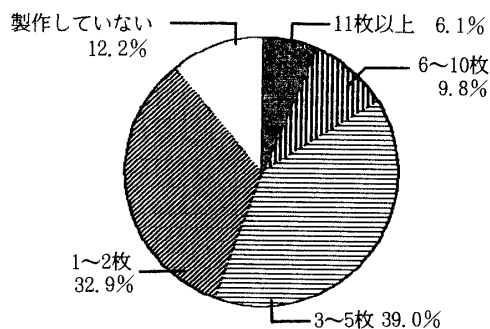


図6 被服製作枚数

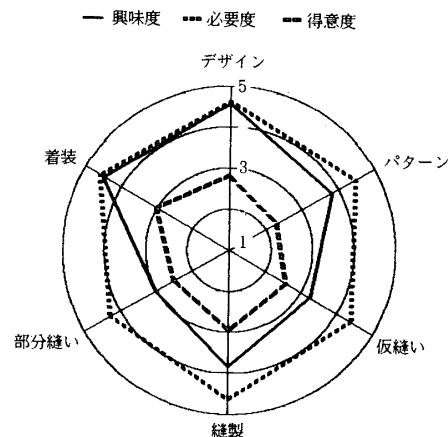


図7 被服構成実習について

必要度から見てみると、デザインが4.63、パターンが4.49、仮縫いが4.40、縫製が4.65、部分縫いが4.28と多少の差はあるがほとんどバランスの取れた六角形を描いており、被服構成実習で行われていることは、全て重要であるという考えは持っているように思われる。しかし、これらに対する興味はどの程度あるのかということについて見ると、デザイン、着装については、それぞれ4.57、4.51と必要度に近い値を示しているものの、パターンの4.49、縫製の3.84と下がり、仮縫いでは3.26、部分縫いでも3.02とますます下がり、デザイン、着装などの感覚的な面に偏っており、部分縫いや仮縫いのように直接形になって出来上がってこないといった物は、嫌う傾向にある。更に、どの程度自分は得意だと思っているのかについては、全体に低く、中では着装面が高くて3.05であり必要度、興味度に比べて低く、他の5項目については更に低い値を示している。これは、自分で自身の評価をしたので低く得点化されたためと考えられ、興味度、必要度との比較は得点では出来ないが、図7によると、パターンと部分縫いにおいて低くなり六角形が細長くなっていることからわかるように、この2項目が得意ではないようである。また、縫製面は比較的得意であると答えられており、このクラスを専攻した学生の特徴が表れているように思われる。仮縫いについては、やや不得意のようであり、2年間しか学んでいない腕の未熟さを実感しての回答であるように思われる。

これらをまとめると、着装とデザインについては必要性を痛感しており、かつ興味もあり、得意だとも思っている。また、パターンについては、必要性を感じ興味もあるが、非常に苦手である。部分縫いには興味はさほど持たず、得意でもないようである。これらのことより、必要性はよく理解しているものの、得意、不得意は、持っている興味の程度にも影響をうけるということを考えに入れておく必要があると思われる。

5. 卒業後について

2年間の授業で修得したことを、どのように生かしたいかについて質問をしたが、何らかの専門職で生かしたいと答えた学生は、27名で32.9%と約3分の1であった。また、家庭洋裁として生かしたいと答えた学生は、61名で74.4%とかなり多い。また、既製服に対する知識として生かしたいと答えた学生は、45名で54.9%と半数以上であった。全ての学生が、何らかの形で2年間の学習を生かそうと考えている。そこで、もう少し細かく分けて質問をしたので、その結果を図8に示す。まず、最も多い家庭洋裁として生かすと答えた学生をみると、家族や自分の着るものは作りたいと言う者が48名であり最も多い意見である。その他既製服の直しに生かす者24名、古くなった洋服等のリフォームをする者9名であった。次に知識を生かしたいと答えた学生では、コーディネイトに生かす者が42名で全体では2位を占めている。また、既製品を選択する時などに生かすと答えた学生も15名あった。更に、3分の1近くを占めている専門職で生かしたい学生については、パタンナーという意見が20名と最も多く、次にアドバイザーの14名、デザイナーの12名、縫製の7名と続いている。2年間学んだことを何も生かさないと考えている学生はいないようで、無回答は無かった。

では、実際服飾デザインクラスの学生が、卒業後どのような方向に進んだかを調べて、進学、専門職、一般職、その他に分けて円グラフに表した。(図9) 専門職に進んだ学生は14名で全体の17.1%と、専門を学ぶクラスにとっては少ないようにも感じるが、進学した学生は、専門知識をより深め専門職につくための進学であり、その数を合わせると50%を占めている。

そこで、2年間の授業で修得したことを専門職に生かしたいと考える学生は、その職種に関係が深いと思われる項目、つまりパタンナーとして生かしたい者にはパターンについて、アドバイザーとして生かしたい者には着装について、デザイナーとして生かしたい者にはデザイン

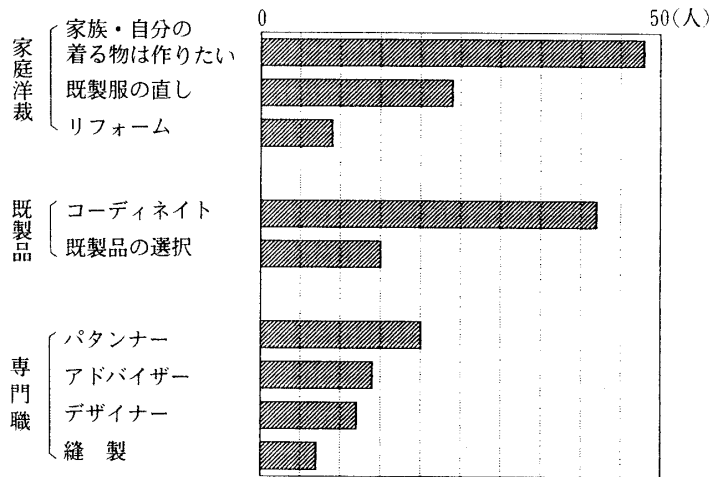


図8 今後の生かし方

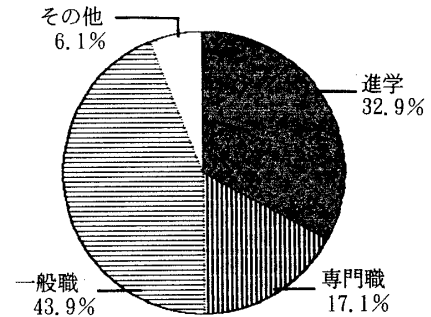


図9 卒業後の進路

について、縫製で生かしたい者には縫製について、どの程度の興味を持ち、得意に思っているかをまとめたものが、表4である。比較のために、前述の服飾デザインクラス82名のその項目についての平均値を併記した。全体平均と比較すると、興味の高さは、4項目共高くなっており、興味のあることを専門職に生かしたいと考えている学生の意識が表れている。しかし、得意の高さは、パタンナーでは-0.12の2.20であり、アドバイザーでは-0.48の2.57と低くなっている。また、デザイナーでは+0.93の3.75であり、縫製については+1.20の4.14と非常に高くなっている。これについては、2年間の授業で修得した知識や技術に対して、実際に専門職で生かすことを考え併せた学生の自分に対する評価の現れとして、注目すべき点であろう。

表4 将来生かしたい職種別の各項目に対する興味度と得意度 (平均点)

生かしたい 専門職	人数	対象項目	興味度	得意度	服飾デザイン クラス平均		卒業後の進路		
					興味度	得意度	進学	専門	一般
パタンナー	20	パターン	4.65	2.20	3.85	2.32	13	5	2
アドバイザー	14	着 装	4.79	2.57	4.51	3.05	9	4	1
デザイナー	12	デザイン	4.92	3.75	4.57	2.82	10	2	0
縫 製	7	縫 製	4.57	4.14	3.84	2.94	3	3	1

要 約

現代の個性化時代の中に生きる学生のライフスタイルを衣生活面から取り上げ、第1報ではファッション全般における意識を、第2・3報ではそれぞれ春夏物・秋冬物を中心に着意意識や購買行動について調査を行い、学生のファッション感の輪郭や専攻による意識・行動の差を把握した。そこで本報においては、被服構成実習の指導上の手掛かりを求めて服飾デザインクラスの学生を対象に現状と将来について調査を行い、次のような結果が得られた。

1. 学生は自分たちの欲しい情報を、より適切な雑誌を選びそこから入手している。
2. DCブランドで購入する学生は約3分の2であり、かなりのアイテムについて多くのブランド名を上げている。

3. 被服を購入するにあたっての選択のポイントはそれぞれアイテム毎によく考えられている。

4. 被服構成実習で学んだ知識・修得した技術については、全ての学生が何かに生かしたいと考えており、更に就職に結びつけ専門職に生かしたいと考えている学生は、興味度が高く、得意度では自分たちを辛辣に評価している。

現代の学生は、マスメディアによる情報を多量に受けているが、そのみでは理想的なライフスタイルを持つ事は出来ない。情報を取捨選択する能力と不足している知識を大学の中で補っていかなくてはならない。今回の調査で得たことを手掛かりに、今後の被服構成実習の指導においては、デザインや縫製の技術のみならず、いろいろな面においての知識を与えられるように、情報の研究を更に進め、尚、学生の志向に対応した実践的で且つ魅力のある授業展開をしていきたいと考えている。

文 献

- 1) 早坂美代子, 原田妙子: 名古屋女子大学紀要, 35, 25 (1989)
- 2) 早坂美代子, 原田妙子: 名古屋女子大学紀要, 35, 33 (1989)
- 3) 早坂美代子, 原田妙子: 名古屋女子大学紀要, 36, 19 (1990)